

ウドノキ

Pisonia umbellifera

オシロイバナ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑高木。幹の直径が1mを越えることもある。樹皮は灰褐色。全体が無毛。葉身は柔らかくて厚く光沢があり、長楕円形で全縁、長さ9～25cm、幅2.5～10cmで、基部は長さ1～6cmの葉柄に流れる。雌雄異株。

【分布の概要】

小笠原諸島；太平洋の熱帯・亜熱帯地域

【小笠原諸島における生育環境】

土壌が深くやや湿った場所に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989a；豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
5	2	3	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	6	0	0

判定基準

D



(執筆：加藤英寿・大場秀章)

マルバケツメクサ

Portulaca boninensis

スベリヒユ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。茎の下部は倒れ伏して分枝し、草丈は5～10cm。葉は多肉質で互生し、長さ4～8mm、幅2～3mm、葉の基部に縮れた白毛が密生する。花は6～9月に枝先につき、花弁は黄色で5枚。ヒメマツバボタン *P. pilosa* と混同されることが多いが、こちらは花弁が赤紫色である。本種を中国から記載された *P. psammotropha* と同種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地平坦面や海岸の日当たりの良い岩礫地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

Tuyama, T., 1939.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆：加藤英寿・大場秀章)

テリハコブガシ

Machilus pseudokobu

クスノキ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑高木。別名タブガシ。葉は狭倒卵形で無毛、主脈・側脈ともに明瞭で、表面に光沢がある。枝先に多くの葉が集まる。3～4月に枝先の大きな頂芽が展開し、新葉とともに円錐花序が現れ、淡黄緑色の花を咲かせる。果実は球形。枝の芽鱗痕が膨らんで網目状となり、目立つ。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

土壌が深くやや湿潤な樹林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	1	4	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	8	0	1

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンセンニンソウ

Clematis terniflora var. *boninensis*

キンポウゲ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

つる性の多年草。センニンソウ *C. terniflora* (広義) の変種で、葉は羽状複葉で光沢があり、小葉は3～7枚、小葉の柄が枝などに絡みつく。夏～秋に葉腋から円錐花序を伸ばし、多数の白い花を咲かせる。花弁は4枚。本土のセンニンソウとは、葉に光沢があって広いこと、茎や葉に毛が乏しいことなどで区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い疎林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路脇の林縁に多いため、草刈りなどの際には注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	9	3	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	6	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマゴショウ

Peperomia boninsimensis

コショウ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

多年草。全体が無毛。草丈は15～30cmほどで、生育環境によって異なる。葉は対生し、やや多肉質、楕円形で全縁。葉脈は主脈以外は不明瞭。4～7月にかけて枝先の穂状花序に淡緑色の小さな花を密集してつけ、小果は熟すと赤褐色になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

湿潤な樹林の樹幹や岩上に着生する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や自生地の乾燥化に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	6	6	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
5	0	0	3	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

タイヨウフウトウカズラ

Piper postelsianum

コショウ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

多年草。全体が無毛。草丈は2mに達し、葉は円形から腎臓形で長さは20cm内外。葉柄は長さ7～8cmで、基部は茎を抱き、葉腋から穂状花序を伸ばす。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地のやや湿った林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が限られ個体数が少ないため、ネズミによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンヒサカキ

Eurya boninensis

ツバキ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木～小高木。全体が無毛。葉は互生し、葉身は長楕円形で光沢があり、先はわずかにとがり、縁は多数の低い鋸歯がある。葉腋に白く小さな花をつけ、液果は黒く熟す。本土のヒサカキ *Eurya japonica* とは、枝がより細かく分枝することなどで区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地のやや湿った林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

父島列島や母島では更新が良好に行われている自生地が限られており、個体数の維持が難しいと考えられている。外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
8	2	2	0	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	8	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンタイトゴメ

Sedum japonicum subsp. *boninense*

ベンケイソウ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。草丈は10cm内外。茎や葉は多肉質で黄緑色。葉は互生し、長さ5～8mm。3～10花からなる集散花序を茎の先に付け、花弁が光沢のある黄色をした花を咲かせる。夏には地上部が枯れて地中に鱗茎が残り、晩秋に芽吹いた後、雨の多い低温期に開花する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地の日当たりの良い岩礫地に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害やモクマオウなどの外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	2	2	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ナンカイアジサイ

※備考 (p. 300)

Hydrangea sp.

ユキノシタ科

小笠原諸島

CR

環境省

【形態・生態】

落葉低木。葉は対生し、葉身は長楕円形、表面は堅い毛が生え、触るとざらざらする。伊豆諸島に生育するラセイタマアジサイ *H. involucrata* var. *idzuensis* に類似するが、花色が白色である点が異なる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の雲霧林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

大場秀章, 1982a; Ohba, H., 1986b; 佐竹義輔ら (編), 1989a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハハジマトベラ

Pittosporum beecheyi

トベラ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木。樹皮は暗灰褐色。葉は狭倒卵形で長さ4～8cm、全縁、無毛で、枝先に輪生状に集まる。花は白色で漏斗状をしており、枝先に1～2個つく。果実は球形で径1.5～2.2cm、子房は有毛で柄は垂れ下がる。本種をコバトベラの変種とする見解もある。その際の本種の学名は、*Pittosporum parvifolium* var. *beecheyi* である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くの樹林や尾根上の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989a; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	5	2	3	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	8	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シロトベラ

Pittosporum boninense

トベラ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑低木～小高木。全体が無毛。樹皮は灰褐色で白っぽく見える。葉は倒披針形で長さ8～12cm、枝先に輪生状に集まる。花は集散花序に3～8個つき、総花柄は長さ約5cm、花柄は長さ1～2cm。花弁は長さ約12mm、果実は径約1cm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸近くから山地にかけて日当たりの良い疎林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路脇の林縁に多いため、枝払いなどの際には注意する。また外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～ 100000	不明
9	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	1	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

オオミノトベラ

Pittosporum chichijimense

トベラ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木。全体が無毛。樹皮は灰褐色。葉は倒卵形でシロトベラよりも丸みを帯び、長さ6～10cm、全縁。花序には総花柄がないか短く、花柄は長い。花弁は長さ約12mm、果実は径約1cm。本種をシロトベラの変種とする見解もある。その際の本種の学名は、*Pittosporum boninense* var. *chichijimense* である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地のやや湿った林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布域が狭い上、ノヤギによる食害が深刻である。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～ 100000	不明
3	0	1	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	4	0	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

コバノトベラ, コバトベラ

Pittosporum parvifolium

トベラ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。葉は狭倒卵形で長さ1～4cmと小型であり、全縁、枝先に3～5枚が輪生する。花は枝先に1～2個つく。果実は径約12mmで、果柄は直立する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

乾燥した低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害が深刻である。また個体数が極端に少なく、自然状態ではほとんど結実しないため、次世代の更新がほとんどない。目立たない植物なので踏みつけに注意が必要である。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	0	0	2

判定基準

E + ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

タチテンノウメ

Osteomeles schwerinae

バラ科

小笠原諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑低木。幹は斜上して高さ約1.5m。葉は奇数羽状複葉で長さ2～4cm、小葉は13～14対、線状楕円形で鋭頭、全縁、表面は光沢があり、白色の軟毛が多少生える。花は径約1cmで白色。南西諸島に分布する近似種のテンノウメ *O. anthyllidifolia* とは、小葉・花・果実が大きい、海岸付近に生育しないといった違いがある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

乾燥した低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害やモクマオウなどの外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

シラゲテンノウメ

Osteomeles lanata

バラ科

小笠原諸島

VU

環境省

【形態・生態】

常緑低木。幹は地面を這う。葉柄は短く、小葉は6～12対で全体的に丸く、表面に白色の軟毛が密生する。花は径約1cmで白色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

土壌の浅い岩場などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害やモクマオウなどの外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～ 100000	不明
1	4	2	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマカナメモチ

Photinia wrightiana

バラ科

小笠原諸島

VU

環境省

NT

【形態・生態】

常緑低木～小高木。全体が無毛。葉は互生して枝先に多く集まり、長楕円形で鋭頭、長さ4～10cm、幅2～4cm、先半に粗く低い鋸歯があり、表裏とも無毛。散房状の花序が頂生し、花は白色で径約8mm。果実は卵状球形で熟すと赤くなり、長さ6～8mm、径5～7mm。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い尾根筋などの低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害やモクマオウなどの外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～ 100000	不明
2	3	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	6	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

イオウトウキイチゴ, オガサワラカジイチゴ ※備考 (p.300)

Rubus boninensis

バラ科

小笠原諸島 CR

環境省

【形態・生態】

常緑低木。株全体にとげはなく、枝は無毛。葉は広卵形から扁卵形で3～5浅中裂。花は径約2.5cm、萼筒に2～3mmの腺刺毛が密生し、萼裂片は披針形で斜めに開く。果実は球形で径1cmほど。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の山地の上部の疎林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

滅多に人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

チチジマキイチゴ

Rubus nakaii

バラ科

小笠原諸島 CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。樹幹は緑色。葉は互生し3深裂、葉縁は二重鋸歯。葉は無毛で葉脈は明瞭。本土に分布するカジイチゴ *R. trifidus* と同種とする考え方もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

道路脇の林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

刈払いや外来植物による被圧の影響で、ここ数年は確認できていない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	3	0	0	1

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ニシムラキイチゴ, ハチジョウクサイチゴ

Rubus nishimuranus

バラ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑低木。高さ 20 ～ 50cm、茎や葉柄に小さいとげがあり軟毛が密生する。葉は 3 小葉からなり二重鋸歯がある。花は径約 4cm。果実は通常、成熟しないが、稀に結実し、球形で橙黄色。

【分布の概要】

小笠原諸島、伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【小笠原諸島における生育環境】

道路脇の林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路脇の林縁に多いため、枝払いなどの際には注意する。また外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1989a; 豊田武司（編）, 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	4	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	4	1	0	0

判定基準

E



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンモダマ, ワニグチモダマ

Mucuna gigantea

マメ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

つる性の常緑木本。葉は 3 小葉からなり、長さ 3 ～ 5mm の小托葉がある。葉腋から伸びた長い柄の先に 9 ～ 30 花からなる散房花序をつけ、淡黄緑色の花を咲かせる。果実は長楕円形で扁平、長さ 8 ～ 14cm。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；東南アジア、太平洋諸島、インド、オーストラリア

【小笠原諸島における生育環境】

疎林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1989a; 豊田武司（編）, 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	3	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

E



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

イソフジ

Sophora tomentosa

マメ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。若枝や葉の裏面は灰白色の毛を密生し、ピロード状となる。葉は奇数羽状複葉、5～8対の側小葉をつける。枝先に総状花序をつけ、花は黄色。豆果は1～4月に熟し、裂開しない。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島；アジアから太平洋諸島の熱帯・亜熱帯

【小笠原諸島における生育環境】

海岸の砂質地に生育するが、植栽されたものも多い。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸部の開発などに注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989a；豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	1	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	1	2	1	1

判定基準

ACD



（執筆：加藤英寿・大場秀章）

テリハニシキソウ ※備考 (p. 300)

Chamaesyce hirta var. *glaberrima*

トウダイグサ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

一年草。シマニシキソウの変種で、草丈10～30cm、葉の表面に光沢がある。地上部がほぼ無毛であることから、全体的に有毛であるシマニシキソウと区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

日当たりの良い岩礫地や道端などに生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害やモクマオウなどの外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司（編），2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	1	0

判定基準

E + ACD



（執筆：加藤英寿・大場秀章）

セキモンノキ

Claoxylon centinarium

トウダイグサ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑小高木。樹皮は暗褐色。全株無毛。葉は互生して枝先に多く集まり、葉柄は長さ7～9cm、葉身は長楕円形から倒披針形で先端がとがり、長さ10～20cm、縁が波打ち細かい鋸歯がある。雌雄異株。葉腋に総状花序が伸び、白緑色の小さな花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

土壌の深い湿った樹林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新がほとんどない。アカギなどの外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	3	0	0	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハツバキ

Drypetes integerrima

トウダイグサ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑小高木。樹皮は灰褐色。葉は互生し、葉身は楕円形から卵状楕円形で先は丸く全縁、長さ4～7cm。雌雄異株。6～7月に枝先の葉腋に小さな花を咲かせ、秋に表面を絹毛に覆われた約2cmの果実をつける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

主に風衝地の疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ネズミ類による種子の食害が懸念される。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
18	12	2	3	0	0	5

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	19	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

アツバシロテツ

Melicope grisea var. *crassifolia*

ミカン科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。若枝は短毛が密生する。葉は対生し、葉身は厚く楕円形で先端は凹むことが多く全縁。雌雄異株。葉腋に総状花序をつけ、4～5月にわずかに黄色を帯びた白色の花を咲かせる。果実は表面に短毛が密生する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

乾燥した低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新がほとんどない。樹林の植生遷移の進行に伴う被圧により、結実状況が悪化している可能性がある。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	0	2	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンゴシュユ

Melicope nishimurae

ミカン科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木～小高木。葉は対生し3枚の小葉からなる。葉柄は2～4.5cm、小葉は倒卵形。雌雄異株。葉腋に総状花序をつけ、4～5月にわずかに黄色を帯びた白色の花を咲かせる。果実は表面に短毛が密生する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや乾燥した低木林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

結実するが次世代の更新が少ない。ノヤギの食害や植生遷移の進行に伴う被圧により、稚樹の成長が妨げられている可能性がある。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	3	4	1	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆者: 加藤英寿・大場秀章)

シロテツ

Melicope quadrilocularis

ミカン科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

常緑低木。若枝はほぼ無毛。葉は対生し、葉身は楕円形で先端は円形または凹み、全縁。雌雄異株。葉腋に総状花序をつけ、3～4月に白色の花を咲かせる。果実は無毛で、浅く4裂する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや乾燥した低木林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新がほとんどない。樹林の植生遷移の進行に伴う被圧により、結実状況が悪化している可能性がある。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	2	0	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマムクロジ

Sapindus boninensis

ムクロジ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

落葉高木。樹皮は灰褐色。葉は互生し、偶数羽状複葉。小葉は広披針形で48対、全縁。花は円錐花序で果実は球形で直径約2cmになり、中に球形の黒くて硬い種子をつくる。ムクロジ *S. mukurossi* に比べて、小葉が紙質で細いといわれているが、大きな差異がないことから同種とする考え方も有力である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸に近い樹林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	1

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンイヌツゲ ※備考 (p. 300)

Ilex matanoana

モチノキ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木～小高木。樹皮は灰褐色。全体が無毛。葉は互生し、葉柄は長さ2～4mm、葉身は倒卵状楕円形で長さ1.5～3cm、幅1～1.5cm、縁に2～4対の低い鋸歯がある。新葉は赤褐色を帯びる。雌雄異株。果実は平たい球形で熟すと黒くなる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

土壌が浅くやや乾燥した低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	2	4	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	6	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンモチ

Ilex mertensii var. *beecheyi*

モチノキ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑小高木。樹皮は灰褐色。葉は互生し、葉柄は長さ0.5～1cm、葉身は長楕円形で先端は鈍形、長さ2～5cm、幅1～3cm、全縁または粗く低い鋸歯がある。雌雄異株。シマモチ *I. mertensii* var. *mertensii* に比べ、葉が小さく、果柄が長いなどの傾向が認められる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿性の疎林や低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

髯島ではノヤギによる食害によって絶滅したと考えられている。残された数少ない自生地では、ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1989b; 豊田武司 (編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	5	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	5	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ヒメマサキ

Euonymus boninensis

ニシキギ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木～小高木。若枝は緑色、古い枝は褐色で、全体が無毛。葉は対生し、葉柄は長さ3～4mm、葉身は卵円形から狭倒卵形で長さ2.5～8cm、幅1.2～5cm、縁に低い鋸歯がある。枝先付近の集散花序に黄緑色の小さな花を多数つける。本種をマサキの変種とする見解もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

山地の低木林や疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	17	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	10	0	0

判定基準

E



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ヤエヤマハマナツメ

※備考 (p.300)

Colubrina asiatica

クロウメモドキ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

半つる性の常緑低木。葉は互生し、葉柄は長さ8～15mm、葉身は卵形で長さ5～9cm、幅2～6cm、縁は低い鋸歯がある。葉腋から出る集散花序に黄緑色の小さな花が咲く。果実は球形で径7～9mm、3小核に分かれる。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島、東南アジア、オセアニア、南アフリカ

【小笠原諸島における生育環境】

硫黄島のギンネムなどの外来植物が優占する低木林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

一般人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

© 東京大学
植物標本室(TI)

(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

カラピンラセンソウ ※備考 (p.300)

Triumfetta semitriloba

シナノキ科

小笠原諸島 EN

環境省 EN

【形態・生態】

多年草～半低木。葉は互生、葉身は広卵形で、ときに3浅裂して縁には不規則な鋸歯があり、両面に軟毛が生える。葉腋に集散花序が2～3個出て、黄色い花を咲かせる。果実は球形で径約5mm、長さ2mm程度の刺毛が密生する。

【分布の概要】

小笠原諸島；熱帯・亜熱帯全域

【小笠原諸島における生育環境】

南硫黄島の海岸近くの草地や疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

一般人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Tang, Y. et al., 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

No image

(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

イオウトウフヨウ

Hibiscus pacificus

アオイ科

小笠原諸島 VU

環境省

【形態・生態】

落葉または半常緑の低木～小高木。葉は互生し、葉柄は葉身とほぼ同長、基部の托葉は卵形または広卵形、葉身は5角状円形で3浅裂し、切れ込みは浅い。花弁は狭い扇形で幅3～4cm、柱頭はサドル形。若い茎、葉、花柄、副萼、萼には星状毛が密生するが腺毛はない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

南・北硫黄島の中腹より上部の疎林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

一般人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

Ohba, H., 1986a; 佐竹義輔ら (編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	0	0	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：加藤英寿・大場秀章)

ナガバキブシ

Stachyurus macrocarpus var. *macrocarpus*

キブシ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。葉は互生し、葉身は卵状長楕円形で先はとがり 長さ7～14cm、幅3～5.5cm、側脈は5～7対。雌雄異株。1～3月に葉腋から長さ2～5cmの総状花序が下垂し、淡黄緑色の花を咲かせる。伊豆諸島のハチジョウキブシ *S. praecox* var. *matsuzakii* は葉がより長く葉質が薄い点で異なる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った低木林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新がほとんどない。樹林の植生遷移の進行に伴う被圧により、結実状況が悪化している可能性がある。また、外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	1	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	0	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハザクラキブシ

Stachyurus macrocarpus var. *purnifolius*

キブシ科

小笠原諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木～小高木。ナガバキブシよりも葉がやや大きく 長さ10～15cm、幅3.5～6cm、側脈は9～11対。雌雄異株。11～2月に葉腋から長さ10～14cmの総状花序が下垂し、淡黄緑色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った樹林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新がほとんどない。樹林の植生遷移の進行に伴う被圧により、結実状況が悪化している可能性がある。個体数が非常に少ないため、生育個体を保護しつつ外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	1	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンカラスウリ

Trichosanthes boninensis

ウリ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

つる性の多年草。葉は互生し、巻きひげは2～4分枝する。葉は広卵心形で裏面に短毛が密生し、長さ10～12cm、3～5浅裂する。雌雄異株。開花期は6～8月、萼裂片は長さ12～15mm。本種をケカラスウリの変種とする見解もあり、その場合の学名は、*Trichosanthes ovigera* var. *boninensis* となる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

林縁の木に巻きついて生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路脇の林縁に多いため、枝払いなどの際には注意する。また外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
4	4	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンフトモモ

Metrosideros boninensis

フトモモ科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑小高木。樹皮は赤褐色。葉は対生し、葉身は長楕円形から楕円形、全縁で無毛、長さ約5cm、幅2～3cm。9月ごろに枝先に集散花序をつけ、赤色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

主に沢沿いのやや湿った樹林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
5	5	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	10	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ヒメフトモモ

Syzygium cleyeraefolium

フトモモ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木～小高木。地面を匍匐するタイプと直立するタイプがある。葉は対生で、葉形も倒卵形から広披針形まで変異が多い。枝先に集散花序をつけ、7～9月に淡紅色の花を咲かせる。外部形態から大きく3群に分けられ、それぞれ生育環境が異なる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

谷筋の湿った林内から風衝地の乾燥地まで様々な環境に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

形態変異が非常に大きく、分類は混乱しているため、その変異の維持に対する配慮が必要である。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	3	4	8	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	11	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

イオウノボタン

Melastoma candidum var. *alessandrense*

ノボタン科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木。葉は対生し、葉身は卵形から長楕円形で両面に剛毛が密生する。枝先に集散花序をつけ、6月ごろに紫紅色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

北硫黄島の雲霧帯の疎林や低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

一般人が訪れることが出来ない場所に自生するため、特に保全上の留意点はない。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	1	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンノボタン

Melastoma tetramerum var. *tetramerum*

ノボタン科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。全体に褐色の毛が生える。葉は対生し、葉身は披針状長楕円形で両面に剛毛がまばらに生え、全縁。花は8～9月に枝先近くの葉腋につき、花弁は白色で4枚または5枚。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや湿った低木林内に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

1983年から保護増殖事業が行われ、成果を上げているが、自生地への過剰な立入りによる踏みつけの影響が懸念される。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
0	1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

D



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ハハジマノボタン

Melastoma tetramerum var. *pentapetalum*

ノボタン科

小笠原諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

常緑低木。葉は対生し、葉身は披針状長楕円形で両面に褐色の剛毛がまばらに生える。花は6～9月に枝先近くの葉腋につき、花弁は淡紅色で5枚あり、ムニンノボタンよりも大型。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

雲霧に覆われやすい稜線の低木林や林縁に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	1	1	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンヤツデ

Fatsia oligocarpella

ウコギ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木～小高木。葉は枝先に集中し、葉身は円形に近く掌状に5～7中裂する。裂片は全縁または粗い鋸歯があり、先端は鈍角かややとがり、無毛で光沢があり、長さ10～30cm。枝先に円錐花序を伸ばし、多くの花を咲かせる。花弁は5枚で卵形。本州に分布するヤツデ *F. japonica* は小葉が7～9裂し、先端が鋭角で鋸歯があることで区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

土壌が深くやや湿った場所に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の乾燥化や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
9	3	2	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	10	0	0

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンハマウド

Angelica boninensis

セリ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。葉は1～2回3出複葉、小葉は長楕円形で鋸歯がある。茎の先に生じる複散形花序に多数の小さな白花をつけ、全体的に半球状となる。果実は広楕円形で両端が凹み、両側に翼が出る。近縁のハマウド *A. japonica* は花序の全体の形が傘状となることなどで区別される。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島

【小笠原諸島における生育環境】

海岸の砂地や岩場に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
2	5	2	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	2	4	1	1

判定基準

E + ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンツツジ, オガサワラツツジ

Rhododendron boninense

ツツジ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

常緑低木。若枝や葉に褐色の毛が密生する。葉柄は長さ4～10mm、葉身は狭長楕円形で先端がとがり、長さ3～5cm、幅1～1.5cm。4月ごろに白色の花を咲かせる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや乾燥した岩場に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

残存する個体が極めて限られているため、人工増殖事業が続けられている。生育個体については、園芸目的の採取やノヤギによる食害、外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
1	0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

ムニンシャシャンボ

Vaccinium boninense

ツツジ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑低木。葉は互生し、葉柄は長さ1～2mm、葉身は楕円形で先はとがり、長さ1.8～4cm、幅1～2.5cm、無毛。枝先の葉腋から総状花序を伸ばし、鐘形で白色の花を咲かせる。果実は球形で径約6mm、熟すと黒くなる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや乾燥した緩斜面や尾根の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
7	9	3	1	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	16	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

シマタイミンタチバナ

Myrsine maximowiczii

ヤブコウジ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木～小高木。葉は互生し、葉柄は紫赤色で長さ2～15mm、葉身は狭倒卵形から長楕円形で長さ1～7cm、幅1～3cmで無毛。雌雄異株。前年枝の葉腋痕に小さな花を咲かせる。果実は球形で径約4mm、熟すと黒紫色になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

やや乾燥した緩斜面や山地平坦面に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
15	13	2	1	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	24	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)

マルバタイミンタチバナ

Myrsine okabeana

ヤブコウジ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

常緑低木。シマタイミンタチバナに比べて、葉が小型で丸く、樹高もより小さく1.5m以下。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生育環境】

尾根や岩場などの乾燥した矮性型の低木林に生育する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

次世代の更新がほとんどない。ノヤギによる食害や外来植物による被圧の影響に注意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b; 豊田武司(編), 2003.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	～	不明
3	0	0	0	0	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 加藤英寿・大場秀章)